

### 3. 学内におけるボランティア活動の実践と参加のきっかけの提供

ボランティア・NPO活動センターでは、学生スタッフを中心となり、ボランティアの第一歩となるような活動や啓発の場を提供しています。センターでは、日常的、定期的に行えるボランティアを数多く紹介、また、学生が社会の課題に気づけるようなイベントを実施して、ボランティアの裾野が広がることを目的として活動しています。

事業名	リユース傘プロジェクト in 深草（継続企画13年目）
日時	2019年4月1日（月）～2020年3月31日（火）
場所	ボランティア・NPO活動センター（深草）
実施主体	ボランティア・NPO活動センター（深草）
利用者数	延べ138名
企画メンバー （学生スタッフ）	中野優太（文学4） 吉田 響（文学4） 小松舞由子（経済4） 渡辺早耶（経営4） 石崎絵梨香（法学4） 山田京花（政策4） 長谷川鈴音（経済3） 吉田 樹（法学3） 佐々木大悟（政策3） 佐藤鴻河（政策3） 森日奈子（文学2） 松尾宗次朗（経済2） 西村志穂（政策2） 福島麻斗（政策2） 谷垣俊弥（法学1） 小林初音（国際1）

#### 1. 経緯・目的

本企画は突然の天候の崩れ等の際、傘を持っていない学生及び教職員がその時のためだけに傘を購入するのはエコではないという思いから始まった。

傘を必要とする方に対し、忘れ物として学生部で所定の保管期間後、廃棄することになった落とし物の傘を譲っていただき、「リユース傘」として貸し出すこと、また、貸し出す際にセンターの活動を広報することにより、センターの利用者数の増加を図ることを目的として、継続して実施している。

#### 2. 概要

- (1) 日時：ボランティア・NPO活動センター 開室時
- (2) 貸出対象：龍谷大学の学生・教職員
- (3) 貸出時の流れ：
  1. 「リユース傘」を1本選択してもらう。
  2. 学生証・教職員証を提示のうえ、必要事項（氏名・学籍番号又は教職員番号・電話番号）を記入してもらう。
  3. 学生スタッフが傘番号を記入し、貸出期間は1週間であること、傘未返却の際連絡する旨を伝える。
  4. 活動の広報を行う。

#### 3. 参加者の声・得られた効果など

今年度、深草学生スタッフの大きな目標が「入室者300名以上」であったことから、リユース傘についても「200本貸し出し」を目標に活動し、6月から7月にかけてチラシ配りや通年でのポスター掲示を行った。結果としては、138本と昨年度から13本上回る程度に終わった。



目標が達成できなかった要因として、新歓時期である4～5月にもっとリユース傘の広報をしておくべきだったことや、梅雨入りが遅かったこともあるのではないかと考える。2018年は6月5日梅雨入り、梅雨の時期の降水量（地域平均値）162%であったのに対して、2019年は6月27日梅雨入り、梅雨の時期の降水量（地域平均値）112%であった。

補足データとしては、学年別利用者数で2018年度3回生利用者が35名であったのに対し、2019年度は4回生以上の利用者が20名、2018年度2回生利用者が36名であったのに対し、2019



年度3回生（2018年度2回生）利用者が31名と合計20名減少した。その一方で、1・2回生利用者が2018年度に比べて増加している。

#### 4. 学んだこと・今後の課題

2018年度と2019年度の利用状況を比較した結果、新入生の入学時期からチラシ、ポスターを利用しながら広報を行うのが効果的であると分かった。前期は新歓や梅雨入りが重なること等から広報中心の活動を行い、後期は利用者満足度を維持、向上するための勉強会等の活動を実施すると、次年度の利用者数増加に繋がるのではないかと考える。



現在、リユース傘を知ったきっかけについて調査ができていない状況である。より効果的な

広報を実施するためにも今後は調査できる状況を作っていくべきだと考える。

また、今年度はリユース傘を新たに20本追加した。今後は破損、紛失等がないように維持管理を徹底して実施し、リピーターの増加を図る必要がある。

そして、来室者にセンターの取り組みやボランティアに興味を持ってもらえるような働きかけをしていきたい。



#### 5. 経費

チラシ用コピー用紙（B5サイズ500枚） 215円

〈報告者：吉田 樹〉

事業名	Re-Use 傘プロジェクト in 瀬田 (継続企画3年目)
日時	2019年4月1日 (月) ~2020年3月31日 (火)
場所	ボランティア・NPO 活動センター (瀬田)
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター (瀬田)
利用者人数	延べ64名
企画メンバー (学生スタッフ)	多田裕貴 (理工4) 加藤翔汰 (農学4) 山元 樹 (理工3) 乾佐枝子 (社会3) 東 里音 (社会2)

## 1. 経緯・目的

予期せぬ天候の乱れで傘がなく困っている方に対してボランティア・NPO 活動センターでリユース傘を貸し出す。使用するリユース傘は、学生部 (瀬田) に一定期間保管された後、廃棄される傘を譲ってもらったものを活用する。傘の貸し出しをきっかけにボランティア情報やセンター事業を紹介する。傘をきっかけにセンターに来てもらい、センターやボランティアについて知ってもらう機会とする。

## 2. 概要

- (1) 日時：センターの開室時
- (2) 対象：龍谷大学学生・教職員
- (3) 広報方法：立て看板・広報紙に挟み込みなど
- (4) 傘の貸し出し手順：
  - ①傘を借りに来た方に、貸し出しファイルへ氏名、学籍番号または職員番号を書いてもらう。
  - ②学生スタッフは、選んでもらった傘の個体番号を記入し、貸し出し期間は1週間である事を伝える。
  - ③各傘の返却期限をホワイトボードに書いて、貸出状況を確認する。
  - ④返却期間を過ぎた場合には、メールで連絡をし、返却を促す。

\*貸し出しだけではなく、センター事業やボランティア等を紹介する。



## 3. 参加者の声・得られた効果など

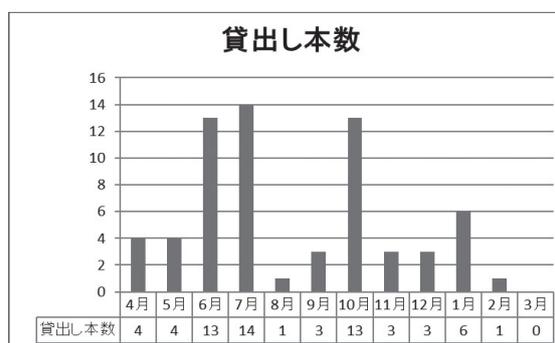
普段センターに来ない人や来にくい人にとっ

て、立ち寄るきっかけになっている。また、傘の再利用につながっている。

傘の貸出しを行うことで、ボランティア・NPO 活動センターやボランティアに関心のない人に対して、興味を引き出すきっかけとなった。ボランティア・NPO 活動センターの存在を知らなかった人や、センターに入りにくいという人にも、リユース傘の貸し出しをきっかけに、センターがどんなことをしている場所なのかを知ってもらえた。

貸出時や返却時に情報提供をすることで、ボランティアや企画の広報につながった。

リユース傘貸し出しデータ



## 4. 学んだこと・今後の課題

今年度は昨年度に比べ、貸出し本数が少なかったため、来年度はより積極的に広報を行っていく。傘の紛失や貸出し記録の字が読みにくいなど、管理方法について不十分な点があった。貸した傘の管理が難しく、定期的に貸し出し数と在庫をきちんとチェックする必要がある。今後は利用者への傘返却についての連絡、記録簿の丁寧な記載をこころがける。

## 5. 経費

消耗品 2,260円

〈報告者：東 里音〉

事業名	深草キャンパス広報誌「ボラゴン」の発行（継続企画11年目）
日時	2019年4月1日（月）～2020年3月31日（火）
場所	深草キャンパス内
実施主体	ボランティア・NPO活動センター（深草） 学生スタッフ広報班
企画メンバー （学生スタッフ）	土橋茉奈（文学4） 平尾匡識（文学4） 脇坂弾夢（文学4） 米本圭吾（経済4） 坂井 綾（経営4） 寺島安里沙（経営4） 井上愛加（文学3） 木村太翼（文学3） 荻原主基（経営3） 川村有希（政策3） 松田侑子（国際3） 神田瑞季（経済2） 森清文聡（法学2） 世田丈貴（法学2） 川根脩那（経済1） 園原 聖（法学1） 竹内祐人（法学1） 藤原壺成（法学1）

### 1. 経緯・目的

広報誌「ボラゴン」の発行を通して、本学学生や教職員にボランティア活動の啓発を行い、ボランティアに興味・関心を持ってもらうきっかけを作る。また、ボランティア・NPO活動センターの周知を行い、センターの認知度向上を目指す。

### 2. 概要

以下の通り年間3回、計2200部を発行した。春、夏、秋、冬の年4回を予定していたが、広報誌以外での広報手段についての話し合い期間を設けたため、夏号は中止した。

#### ○春号10ページ（1500部発行）

- ・龍谷大学生のボランティア分野別関心度データ
- ・ボランティア体験談紹介
- ・センター紹介

#### ○秋号8ページ（500部発行）

- ・学生スタッフ企画紹介  
深草ふれあいプラザ／南区民ふれあい祭り
- ・ボランティア紹介  
環境保全ボランティア／日本語教室ボランティア
- ・新学生スタッフへのインタビュー

#### ○冬号8ページ（200部発行）

- ・ボランティアの魅力紹介
- ・ボランティア適性診断
- ・春休みにおすすめのボランティア紹介  
ワークキャンプ in 余呉／梅小路プレイパーク／プラネット
- ・ボランティア保険紹介

### 3. 参加者の声・得られた効果など

- ・本誌を見てセンターへ来室し、ボランティア相談を受けた学生が6名いた。その学生の中

には、ボランティア紹介記事を読んで興味をもった人もいた。



- ・企画メンバーにとって、記事を作ることで、ボランティアの魅力を再確認したり、ボランティア初心者に対するアプローチの仕方を考えたりする機会にもなった。

### 4. 学んだこと・今後の課題

- ・広報誌の表紙は最初に目が留まる部分であるため、表紙から内容が分かるように目次を記すなど、中身を読みたくするような工夫が必要である。
- ・記事を作るにあたって大切なことは、一般学生の視点に立つことだと思っている。しかし、これを意識し続けることは難しいため、製作者同士で記事を共有し、初めて記事を読む人の視点で校閲する過程が重要だと感じる。また、活動報告書の相談者データを参考にし、学生のニーズに応える記事を作っていく。
- ・製作期間が短いと感じるメンバーもいたため、完成度の高い記事を書くために製作スケジュールを見直し、ゆとりを持つ必要がある。また、一人一人がスケジュールを意識して取り組む必要がある。
- ・広報誌の良い点は、ボランティア募集チラシには載っていない、学生スタッフのボランティアに対するリアルな声を届けられるとこ

ろにあると思う。そのため、より学生スタッフのボランティアの知識や経験が求められる。

## 5. 経費

消耗品（A4用紙、インクカートリッジ等）  
4,008円

〈報告者：松田 侑子〉

事業名	瀬田キャンパス広報誌「Volunteer News」の発行（継続企画11年目）
日時	2019年4月2日（火）～2020年3月31日（火）
場所	瀬田キャンパス内
実施主体	ボランティア・NPO活動センター（瀬田）学生スタッフ広報班広報誌係
企画メンバー （学生スタッフ）	杉村歩美（社会4） 玉田遼河（社会4） 藤野凌河（社会4） 永井沙季（理工3） 井上沙雪（社会3） 澤 優希（社会3） 田井拓暉（社会3） 村田大河（社会3） 東 里音（社会2） 大和虹輝（農学1）

### 1. 経緯・目的

ボランティア・NPO活動センター（瀬田）では、2009年度より、センターの活動や企画、また学生スタッフのボランティア体験を親しみやすく記事にし、学生スタッフの目線ならではの広報誌として発行している。

広報誌を配布することで、ボランティア・NPO活動センターの本学学生や教職員への認知度を高めるとともに、当センターへの来室者の増加を目指し、ボランティア啓発を行うことを目的とする。

### 2. 概要

- (1) 春号（2000部発行）  
配布時期：4/2～4/8  
内容：センター紹介、学生スタッフの紹介など
- (2) 夏号（500部発行）  
配布時期：7/18～7/19  
内容：センターの紹介、入門講座、ボランティア紹介
- (3) 秋号（400部発行）  
配布時期：10/28～10/29  
内容：学生スタッフ企画の紹介
- (4) 配布・設置場所  
学生スタッフによる手配り、ボラセン会議、説明会、報告会での配布。設置場所はセンター（瀬田）、学生交流会館パンフレットスタンド、Vコーナー



### 3. 参加者の声・得られた効果など

- ・センター紹介やボランティア紹介の記事から興味を持ち、センターを訪れてもらうことができた。ボランティア記事がまとまっているので、センターでのコーディネートの際にも広報誌を使うことができた。
- ・学生スタッフがその時々企画の記事として執筆する。内容やレイアウトで手直しする必要があるため、前もって早めに担当者に依頼をし、修正にあたっては相談するなど、時間のかかる作業となるため、スケジュール管理の大切さをこの企画を通して学んだ。

### 4. 学んだこと・今後の課題

記事作成から配布までの期間設定に余裕がなく、それぞれが慌てて作業することが多々あった。より良い記事を作成するためにも、時間に余裕のある作成期間を設定しなくてはならない。広報誌作成の日程や発行数、作成過程にお

ける問題点をまとめて期間設定に反映しておくことが必要である。今年度は作成する班員が少ないこともあり一部の記事を広報班以外の学生スタッフにも協力してもらった。連絡をこまめに取りすることで作成時期にも間に合い、メンバーが少なくても作成できるということがわかった。

配布に関して、時期により人が集まらないこともあったが、他の企画と合同で広報を行うことで配り手を集めることが出来た。

広報誌は学生スタッフ全員で協力して作成、

配布している。記事作成を協力してもらい、配布を合同で行うことなどは学生スタッフで協力する機会となるため今後も続けていきたい。広報誌を作成する意義や、直接手配りすることの意味を毎年度明確にし、学生スタッフ全体でより良い広報誌を作っていきたい。

## 5. 経 費

消耗品（インク、A4用紙） 4,264円

〈報告者：東 里音〉

事業名	Let's ボランティア（継続企画10年目）
日時	2019年7月18日（木）・19日（金）12時35分～13時25分（昼休み）
場所	瀬田キャンパス内
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター（瀬田）
企画メンバー （学生スタッフ）	樋上翔太（理工3） 頼田翔平（理工3） 石川秀凱（社会3） 奥村 遥（社会3） 木村卓真（社会3） 正中菜帆（社会3） 瀬戸山瑠衣（農学3） 青山友香（社会2） 赤木宏斗（社会2） 近藤真佑華（農学2） 安原拓真（社会1） 小谷悠真（農学1）

## 1. 経緯・目的

- (1) 時間に余裕のある夏季休暇中に何か新しいことにチャレンジしてみたいと思っている学生にむけて、休暇中に行くことのできるボランティアを広報することで、ボランティアに参加するきっかけを提供し、ボランティアに興味を持ってもらえるようにする。
- (2) ボランティアには興味はあるがセンターには行きづらいと感じている学生に対して、学内の人目に付きやすい場所（食堂前）にブースを設け、ボランティア情報に触れる機会を作り、ボランティア参加の後押しをする。
- (3) 他の班係や企画と積極的に連携し、広報活動を活発に行う。



## 2. 概 要

日時：7月18日（木）、19日（金） 昼休み

場所：食堂前、センター

食堂前にブースを設け学生を呼び込み、夏休みに行くことのできるボランティアを分野ごとに数種類用意し、ブースに立ち寄った学生にボランティア紹介を行う。また、興味を持ってくれた学生に対しては、センターに誘導してさらに詳しくコーディネートを行う。

ボランティアは、昨年度学生スタッフが夏季休暇中にボランティアに行った内容をまとめたノート「夏ボラ2018」に掲載されている中から夏らしいものを中心に数種類選び、紹介する際に写真を見せるなど活用する。

同時期に、広報誌配布と大津祭ボランティアの募集を行うので、協力して広報活動を行う。

## 3. 参加者の声、得られた効果など

【ブース来場者6名、センター来室者2名】

- ・チラシを受け取ってくれる学生が多く、学生のボランティア参加への関心があることがわかった。こちらから働きかけると学生も応えてくれるため、センターで来室者を待つだけでなく、こちらからの積極的な働きかけは効

果があると考える。

- ・紹介するボランティアを絞り、食堂前にブースを出したことにより、時間がなくてセンターに来れない人にもボランティアを紹介できた。

#### 4. 学んだこと・今後の課題

- ・2日目は降雨のため来室者が少なかった。また、ブースを出すか、出さないかの判断が遅れたため、活動を開始する時間が遅れた。企画時に雨の可能性を考慮しておかなくてはいけない。
- ・学生にチラシを配った際に、ブースまでの呼び込みができておらず、チラシを配る人と呼

び込みをする人を分けるなど、ブースへの呼び込みをするよう学生スタッフに確認しておくことが必要だ。

- ・センターでのコーディネートでもそうであるが、学生スタッフが紹介したボランティアに実際に学生が行ったのか把握できない。コーディネートした学生に対し、アンケートを渡して後日回収するなど、活動に対する効果を検証できるようなしくみを考えていきたい。

#### 5. 経費

支出なし

〈報告者：青山 友香〉

事業名	第97回龍谷祭への出展（深草）（継続企画18年目）
日程	2019年11月2日（土）～11月4日（月）
場所	深草キャンパス22号館107教室（展示）、4号館前（模擬店）
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター（深草）
来場者人数	展示：520名／模擬店：540食
企画メンバー （学生スタッフ）	<p>[展示] 玉川隆明（文学4） 村井俊介（文学4） 吉田 響（文学4）            下岡祥人（社会4） 富上弥生（政策4） 木村太翼（文学3） 吉田 樹（法学3）            川村有希（政策3） 武村祐資（政策3） 樋口大輝（政策3） 松田侑子（国際3）            森日奈子（文学2） 黒崎雄太（経済2） 安本大輝（法学2） 世田丈貴（法学2）            早川歩伽（文学1） 永野凌平（経営1） 林 新（経営1） 石井翔大（法学1）            園原 聖（法学1） 小林初音（国際1）</p> <p>[模擬店] 中野優太（文学4） 織田香朱美（政策4） 松岡俊希（法学3）            佐々木大悟（政策3） 神田瑞季（経済2） 西野亜優（経済2） 松尾宗次朗（経済2）            山崎迅一郎（経済2） 福島麻斗（政策2） 濱田 葵（文学1） 川根脩那（経済1）            竹内祐人（法学1） 谷垣俊弥（法学1） 藤原壺成（法学1）</p>

#### 1. 経緯・目的

今回の龍谷祭における出展（展示、模擬店）コンセプトを企画メンバーで協議したところ、今年度のボランティア・NPO 活動センター（深草）の目標が「年間来室者数300名越え」であることから、その目標を達成するために「龍谷祭を当センターの認知度向上を図る機会とする」ということで一致した。また、本企画は例年、展示と模擬店とで異なるコンセプトで実施されてきたが、今年度はひとつの企画として一体感を作り出すために、展示・模擬店の両方に通ずる上記の目的を設定した。

これらの経緯で、以下の3点を実施目的として当企画を行うに至った。

- ・多くの龍谷大学生にセンターを認知させ、年間目標の達成につなげる。
- ・展示を通じて、ボランティアや身近な問題に対する興味・関心をもってもらう。
- ・模擬店を出店し、その利益を寄付金または活動資金に充てる。

#### 2. 概要

■展示『学びを発掘！～ボラセンミュージアム～』

展示タイトルにあるように「博物館」をイメージした展示物の製作を進めた。展示ブースとしては、センターの紹介をする「ボラセンブース」、ゴミの廃棄・分別に焦点を当てた「ゴミ

問題ブース」、フェアトレードや留学生の声をまとめた「国際ブース」、福祉マークを始め、様々なマークを紹介する「マークブース」、来場された方が災害や防災について考え易く工夫された展示をする「災害・防災ブース」、小さな子どもでも楽しめる「子ども向けブース」の6つを設置した。その他にも、展示会場内で直近の台風19号被害への募金活動を実施した。



- 模擬店『ボラセン特製シューアイス天ぷら』
- 内容 シューアイス天ぷらの販売
- 価格 2個300円
- トッピングには、チョコ、抹茶、はちみつ、黒蜜、きな粉を用意した。

### 3. 参加者の声・得られた効果など

#### ■展示来場者の声

- ・見て触って体感できる内容が多く、面白かった。素敵な工夫と凝縮された情報によって楽しく勉強できた。
- ・自分もボランティア活動をしているので、いい刺激になった。
- ・熱心に説明してくれて、各ブースで紹介していた問題への関心が高まった。

会場内で実施したアンケートでは上記のような感想が多く見られた。今年度は模造紙だけに頼らず、展示物に来場者の注意を引く工夫を多く取り入れたため、小さな子どもにも学びやすいものとなった。来場者の傾向としては、龍谷大学生より一般の方が多いことが分かり、クイズラリーに参加している人がほとんどであった。また、広報手段として効果的であったのは、龍谷祭のパンフレットへの掲載であり、クイズラリーの対象会場になっていたことも大きな影響力を持つことが分かった。その他にも、受付や外回りに利用した看板を見て来場したという方も多く、龍谷祭パンフレットを含む当日広報

が来場者数増加につながると考えられる。展示会場内で実施した台風19号被害への募金箱を設置することで、3日間で26,602円という額となり、多くの来場者の方の協力を得ることができた。

#### ■模擬店購入者の声

- ・美味しかった。
- ・トッピングを1個ずつ変えられるのが良かった。

3日（日）と4日（月）は初日の評判を聞いて来て下さった方が多かったので、センターの認知度向上に貢献できたと考えられる。利益の一部（30,000円）は企画メンバーで話し合い、台風19号被害への募金に充てることにした。



### 4. 学んだこと・今後の課題

#### ■展示

企画メンバーでブースを決定する際に、展示内容の方向性が明確でなかったため、ボランティアに直接つながる展示にすることができず、「ボランティア・NPO活動センター」としての展示としては不足であったと感じる。アンケートの中にも、「他のボランティアに関する展示を行っている団体との違いがあまり分からない。」という意見が見られた。来年度はセンターならではの展示を意識し、積極的にボランティア情報を入れることが求められる。

また、今年度は製作に多くの時間を費やしてしまったため、初めて龍祭展示に関わった企画メンバーへのアプローチが不十分であった。この問題は長期休暇の有効活用をすることで、製作期間を前倒しすることで解消されると思われるので、次年度に引き継いでいきたい。

## ■模擬店

材料や機材等で大幅な費用の出費があったため、今後は借用する機材の価格を事前に龍谷祭実行委員に聞き、用意できる物は事前に用意すべきであると考えます。その他に、今年度は油を使用したが、その油の使用について、油を十分に熱する、また、熱した油を冷ます時間に多くの時間を要することや、調理器具の清掃に手間

がかかる等の問題が多々生じたので、油を使用しない商品との比較・検討を引き継いでいきたい。

## 5. 経 費

消耗品（展示用模造紙等） 9,943円

〈報告者：世田 丈貴、松尾 宗次朗〉

事業名	第97回龍谷祭への出展（瀬田）（継続企画17年目）			
日時	2019年10月26日（土）・27日（日）〈展示〉10時00分～17時00分 〈模擬店〉10時30分～16時00分			
場所	瀬田キャンパス2号館多機能室1、2（展示）／体育館横（模擬店）			
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター（瀬田）			
来場者人数	来場者数（展示）291名（1日目125名・2日目166名） （模擬店）214食 販売			
企画メンバー （学生スタッフ）	橋本昌尚（農学4） 青山友香（社会2） 川上賢人（農学1）	中川和謙（理工3） 堤 花成（社会2） 小谷悠真（農学1）	二木亮英（社会3） 平井美来（社会2）	瀬戸山瑠衣（農学3） 安原拓真（社会1）

## 1. 趣旨・目的

- 「ひろがり」をテーマに「ボラセンの存在」、「ボラセンの魅力」、「ボラセンの活動」や、「ボランティアの魅力」、「ボランティアの活動」、「ボランティアを通しての学び」を来場者にひろめると共に、来場者に対してセンターの活用や、ボランティアへの参加を促す。
- 龍谷祭に向けて展示製作を全員で進めることで、学生スタッフ自身がボランティアやセンターへの理解を深める。
- 模擬店も含めその運営を協力して行うことで学生スタッフの組織力・団結力の向上を目指す。

## ②ボラセン事業について

- ・センター事業とは
- ・ボランティア入門講座
- ・東日本大震災復興支援ボランティア
- ・国内体験学習プログラム・海外体験学習プログラム
- ・コーディネーション力検定、サークル情報交換会、ボランティアリーダー養成講座

## ③ボランティアについて紹介する展示

- ・夏休みボランティアまとめ
- ・ボランティアコネクトスペース

## 2. 概 要

### (1) 展示

場所：2号館1階 多機能教室1・2

- 内容：①ボランティア・NPO 活動センターの活動紹介（動画での紹介）
- ・センターの役割について
  - ・学生スタッフとは
  - ・班係紹介
  - ・企画紹介（大津祭、コミュニティなど）



- ④体験型・参加型コーナー
  - ・新聞紙スリッパ
  - ・防災クイズ
  - ・ポストイット「オリンピックボランティアについてあなたの意見をきかせてください」
- ⑤令和元年台風19号に関する展示

## (2) 模擬店

場所：体育館横  
 内容：フライドオレオ  
 価格：2個入り200円  
 個数：2日間で214食  
 売上金：42,800円  
 収益：17,980円  
 利益の用途：台風19号被災地支援に全額寄付

## 3. 参加者の声・得られた効果など

- ・水害が最近もあり、タイムリーな話題を通してボランティアをより身近に感じることができ非常によかった。(本学学生)
- ・こんなに多くのボランティアがあることを知れて、とてもよい経験になりました。もっと積極的にボランティアに参加したいと思いました。(一般)
- ・学生さんの若いパワーを頼もしく感じました。40代の母親ですが、私にも何かできることがあるのではないかと考えさせられました。皆さんの活動にとっても刺激を受けました。(一般)

展示でのアンケートに上記のような記述があったことから、趣旨目的のボラセンの活動や、ボランティアの魅力、ボランティア活動、ボランティアを通しての学びを広められたのではないかと考える。

## 4. 学んだこと・今後の課題

- ・模擬店のシフトに学生スタッフが時間通りに来ないことがあった。
- ・控え室に食材を保管せずセンターに置いたため、途中で食材がなくなり、販売を一時中断することとなった。センターに食材を保

管する場合、センターに取りに行ける時間を確認しておくべきだった。

- ・展示物の模造紙にふりがなをふっていなかったため、子どもに読みづらかった。
- ・コーディネーションコーナーを作り、チラシやラック、コーデ机を置いていたが、実際に来場者にコーディネーションをするのは難しかった。今後やり方を考えていきたい。
- ・学生スタッフ内で情報共有不足があった。
- ・昨年の課題であった展示での受付の対応の仕方は、学生スタッフに向けてマニュアルを作成したため、スムーズに受付対応することが出来た。
- ・模擬店では昨年の反省から試作会で分量の把握などをしっかりと行ったため、本番で準備や調理がうまくいった。
- ・製作物の決定や、龍谷祭実行委員とのやり取り、模擬店の準備などで、一部の企画メンバーに準備の負担がかたってしまった。次年度のやり方を見直す必要がある。
- ・勉強会や本番での展示を通し、センターでの学生スタッフの活動についてふりかえることで理解が深まり、知識もつけることができた。また、来場者に話すことで、人に伝える力が身についたと思う。



## 5. 経費

消耗品費（模造紙、画用紙など） 4,975円

〈報告者：青山 友香〉

事業名	収集ボランティア～自宅に眠っているもので支援ができる！～（継続企画2年目）
日時	2019年10月16日（水）～2020年3月31日（火）
場所	ボランティア・NPO 活動センター（瀬田）
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター（瀬田）
収集結果	本762冊、CD7枚、書き損じはがき16枚
企画メンバー （学生スタッフ）	西野大輝（理工3） 山元 樹（理工3） 乾佐枝子（社会3） 井上沙雪（社会3） 村田大河（社会3） 高岡宏幸（社会2） 橋本奈津子（農学2） 杉山わかな（社会1）

### 1. 経緯・目的

子どもを取り巻く社会問題が深刻となっている。社会保障4経費に子育てが含まれるなど、今日、急速に子どもの社会問題が認知されている。子どもの社会問題は様々で、「特定非営利活動法人山科醍醐こどものひろば」では、それに対する多くの活動が実施されている。そこで、龍大生・教職員にこの団体の活動とその背景にある社会問題を詳しく紹介することで、子どもを取り巻く社会問題について興味関心を深めてもらう。この団体への関わり方はボランティア参加や会員登録、事業指定寄付など様々な形があるが、忙しく、時間が取れない人には団体が募集している手軽で間接的な支援ができる物品寄付の仕組みを紹介し、寄付を募る。

### 2. 概要

#### (1) 日時：

2019年10月16日（水）～2020年3月31日（火）

#### (2) 対象：龍谷大学生・教職員

#### (3) 内容

①寄付先：特定非営利活動法人 山科醍醐こどものひろば

#### ②取組の流れ：

- 山科醍醐こどものひろばの「チャリボン」で募集している物品（本・書き損じはがき・DVD・CD）を学生・教職員から募集する。
- 学内での広報活動により、収集ボランティアを知ってもらい、募集している物品（本・書き損じはがき・DVD・CD）のなかで、不要なものが自宅にあればセンターに持ってきてほしいと伝える。
- 集まった物品を段ボールに詰め、「チャリボン」のインターネット無料集荷を申し込む。

※ charibon（チャリボン）：株式会社バ

リューブックスが運営している寄付システム。読み終わった書籍、DVDを集めて査定を行い、買取相当額が指定した団体に寄付される。

#### (4) 広報の方法：

- 来室者に対するの広報：口頭説明、チラシ配布
- それ以外での広報：授業前広報、チラシ配布、立て看板、掲示物、食堂前ブース設置

#### (5) 収集結果：

本762冊、CD7枚、書き損じはがき16枚  
すべて団体へ寄付

### 3. 参加者の声・得られた効果など

- ・山科区に住む学生が「この地域で育ったが、この団体の存在を知らなかった。地元に向けることの大切さを学んだ。」と話してくれた。
- ・忙しい人でも、家にある物品で支援ができるボランティアの存在を知ってもらえた。
- ・地域に住む子どもたちへの支援につながった。
- ・山科醍醐こどものひろばへのボランティアに学生スタッフが継続的に参加したことで、広報時により具体的なことを伝えることができた。
- ・学生が日本の子どもの社会問題の一面を知ることができた。
- ・授業前広報を広報手段の中心に据え、先生にお願いして、10分程度の広報時間をいただくことができた。このことにより、多くの学生に私たちの活動に対する思いを直接伝えることができた。
- ・授業前広報の際、先生に自分たちの思いが伝わり先生から多くの書籍を寄付していただいた。
- ・物品寄付の情報だけではなく、山科醍醐こどものひろばが募集しているボランティアを紹介

介したことで学生とNPO法人をつなぐ架け橋となることができた。



#### 4. 学んだこと・今後の課題

授業内で子どもの社会課題について学んでいる社会学部現代福祉学科の学生向けと、その他の学生向けの2パターンの広報チラシを用意したことで、学生に対して適切な情報を届けることができた。昨年度に比べ、学生の共感や理解が得られ、この企画へアクションを起こす学生が増えたと考える。

想像したより多くの方に協力いただけ、また、

受け入れ期間を春期休暇中まで伸ばしたため、受け入れ時のチェックがあいまいになり、書籍数は把握できても、協力人数を把握できなくなってしまった。協力者に記入していただく受付表を用意していなかったのがその原因であった。次回にこの失敗を生かしたい。

本企画への参加者を増やすために活動を可視化できるように取り組んだのだが、そのためには伝える時間が必要になる。限られた授業前広報の時間では無理があるため、他の方法も考える必要がある。

授業前広報を広報の中心とし、学生に思いを直接伝えることができるよい方法であることが分かった。少数の企画メンバーのみでは広報が可能な授業数が限られてしまうため、他の学生スタッフにも協力を求め、幅広い授業、学部へアプローチを図っていきたい。

#### 5. 経費

なし

〈報告者：高岡 宏幸〉

事業名		サークル活動・ボランティア活動情報交換会およびボランティア活動支援	
サークル情報交換会	キャンパス	深草キャンパス	瀬田キャンパス
	実施日時・参加人数	2019年4月17日（水）2団体5名 2019年7月8日（月）4団体7名 2019年9月26日（木）3団体5名 2019年11月12日（火）1団体2名 2020年1月10日（金）2団体6名	2019年4月17日（水）3団体5名 2019年7月8日（月）4団体9名 2019年9月26日（木）2団体5名 2019年11月12日（火）2団体5名 2020年1月10日（金）1団体3名
		いずれも 12時30分～13時00分	いずれも 12時50分～13時20分
	場所	ボランティア・NPO活動センター	ボランティア・NPO活動センター
登録団体		手話サークルLEMON／学術文化局マンドリンオーケストラ／学術文化局ボランティアサークル／そでふれよさこいサークル華舞龍／Sept Couleur／手話サークル Do Activity Yourself／マジック&ジャグリングサークル Mist／国際ボランティア学生協会（瀬田）／うみいる	
活動支援	ボランティア	依頼件数	17件
		調整件数	21件
		活動件数	5件
実施主体		ボランティア・NPO活動センター	

#### 1. 経緯・目的

学内のサークルとの関係をつくり、ボランティア活動を促進することを目的とし、学内で

のセンターの認知度向上、サークルの地域活動のサポート等のためにサークル活動・ボランティア活動情報交換会の実施、およびサークル

へのボランティア活動支援を行っています。

## 2. 概要

### (1) サークル登録制度

学内のサークル（宗教局、放送局、学術文化局、体育局、各種委員会や一般同好会）のうちボランティア活動への参加、情報提供を希望するサークルが登録を行っています。

### (2) サークル活動・ボランティア活動情報交換会

年間5回両キャンパスで実施し、サークル同士のネットワークづくりやサークル活動に役立つ情報提供を行っています。具体的には、センターの活動紹介、サークルの特技を活かした地域でのボランティア活動について説明、助成金の情報提供等を行っています。

### (3) サークルへのボランティア活動支援

自治会等の住民組織、社会福祉施設等、地域の団体からのボランティア活動やボランティア出演の依頼に対し、各サークルへのボランティアコーディネートを行いました。また、地域で活動したいというサークルからの要望についてもコーディネートを行いました。

## 3. 参加者の声・得られた効果など

「各サークルがどのような活動をしているのかを知る機会となった」「活動資金で困っていたが、参加することで助成金情報を得ることができてよかった」という声が参加学生よりありました。

サークルを紹介した地域の団体からは、「学

生のおかげで大いに盛り上がった」「また来てほしい」等の声が寄せられ、学生の活動が地域交流、地域貢献につながっていることがうかがえました。ボランティア出演したサークルの学生からは「出演させてもらって楽しかった」「毎年依頼いただけるのは本当にうれしい」等の感想が寄せられました。

## 4. コーディネーター所感

情報交換会は、短い時間ではあるものの、他のサークルがどのような活動をしているのか、一緒に何かできないか等を話し合っています。また、その中で、熱心に活動しているサークルからは出費がかさむという話が出たことから、助成金情報の提供、申請の相談にのるなどの形でサークル活動の支援を行いました。

今後も、情報交換会がサークル間の交流ができ、学生にとって有意義な情報が得られる魅力的な場となるよう運営するとともに、サークルのボランティア活動をコーディネートしていきたいと考えています。

サークルのボランティア出演は、日頃の成果を幅広い世代に伝える場となり、サークル活動の幅を広げていると感じます。サークルとセンターのつながりを構築し、幅広いサークル、学生の活動をコーディネートしていきたいと思えます。

〈報告者：國實 紗登美

（瀬田キャンパス コーディネーター）〉